

1 学校として目指す授業

児童が主体的に学び、確かな力を身に付けられる学校（学びづくり）

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語、算数共に、学校全体として学力向上を図るためには、D層に属する児童の学力の基礎・基本の定着が必要である。また、東京都と比較してほぼ同等の正答率であったことから中間層の引き上げが課題である。 ・観点別にみると、国語においては、思考・判断・表現が、算数においては「C変化と関係」が東京都の平均正答率を下回っていた。	調査の結果から、算数は授業の内容は「よく分かる」、「どちらかといえば分かる」と回答している児童が多い。国語、社会のそれぞれの「勉強は好きですか」という質問に肯定的に回答している割合が60%である。3教科共に、「勉強は大切ですか」に対して否定的な回答が全国や東京都を上回っている。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校4～6年生）

・4教科とも「授業内容が分かりやすい」、「得意である」について肯定的に回答している児童が東京都の平均を上回っている。
 ・「繰り返しやっている」、「難しいと感じても最後まであきらめずに取り組んでいる」などで肯定的な回答が多く、前向きに取り組んでいる。
 ・授業に取り組むことについて肯定的に回答している一方で、授業のまとめ方や振り返りの仕方については方法が分からないと回答している児童が多い。
 ・学習を進める上で自分で考えたり、友達と伝え合ったりしながら学習に取り組んでいるが、その活動を行う時間が十分でないと考えている児童が多い。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
 ・書く力については、各学年で日記に取り組んでおり、活動を工夫し、学力の向上を目指している。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・算数では、今後も学習中だけではなく、家庭学習等を生かして、基礎・基本の学力の定着を図る必要がある。
 ・学習課題に対し、話し合いを通して、自分と違う意見に触れ、考えを深めたり広げたりすることに苦手意識があることが課題であり、そのための時間を確保することが重要である。
 ・学習したことを振り返ったり、生かしたりするような活動を行う必要がある。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

児童の主体性を高める指導の工夫
 ・指導と評価の一体化
 ・振り返りの工夫

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価		
低学年	・平仮名やカタカナ、漢字が文章の中で使えるように、作文や日記等の指導を通して繰り返し練習させ、基礎・基本の定着を図る。また、自分の考えを表現するために、ペア交流の時間を日常的に取り入れる。				・半具体物の操作をしたり、絵や図などで表現したりする場面を設定する。				・植物や生き物と関わる活動、昔遊びなど体験を通して学びの充実を図る。		・少人数で発表したり、曲想や鑑賞で感じたことを発言したりする場面を設定する。 ・演奏を録画や録音して、全体で振り返る活動を徐々に増やしていく。		・造形的な視点をもって楽しく発想や構想ができるように、自他の作品を対話しながら鑑賞する活動を効果的に取り入れる。				・遊びの中で、様々な動きに楽しんで取り組めるように、場やルールに工夫のある活動を多く行う。				・問題場面や登場人物の心情を自分に当てはめて考えてみることを促す発問を工夫する。			
中学年	・漢字の指導を丁寧に行い、小テストなどを実施して定着を図る。また、論理的に考え、表現する力を育てるために、まとめや振り返り、学習感想など、自分の思いや考えを日常的に書く活動を学習に取り入れる。		・資料から気付いたことや、調べたこと等を共有するために、友達に伝える活動を意図的に取り入れる。		・計算練習を通し、計算力の向上、前時の振り返りを通し、基礎基本の定着を図るための時間を設定する。		・経験や身の回りのことを思い出しながら根拠を明確にさせて、予想し、授業と関連付けられるよう話し合い活動を効果的に取り入れる。 ・学習の定着のために、ICT機器を用いた動画視聴も取り入れる。				・曲想についてや鑑賞などで感じたことを発言できる機会を増やし、多様な価値観に触れる時間を充実させる。 ・自分の演奏をタブレット端末で録画し、振り返る活動を取り入れる。		・造形的な視点をもって豊かに発想や構想ができるように、自他の作品を対話しながら鑑賞する活動を効果的に取り入れる。 ・題材ごとに振り返りシートを用いて、自身の造形活動を記録し、次の表現へと繋げていく。				・体を動かす楽しさや心地よさを味わいながら、体の基本的な動きを繰り返し取り組む活動や全体で動きを共有する活動を取り入れる。				・自分の立場を明らかにし、自分の考えを相手に伝えることができるようになるため、発問を工夫する。			
高学年	・自分の考えを表現するために、ペアや小グループで交流したり、全体で発表したりする時間を設定する。また、友達と共有した後に自分の文章を読み直したり、よりよい表現を吟味したりする時間を取り入れる。		・ICT機器を活用して、調べたこと等を共有し、話し合い活動を効果的に取り入れる。		・小グループでホワイトボード等を活用して、自分の考えを図や式で表して考え、説明できるようにする。		・観察・実験器具等を一人一人が十分に操作できるように時間や環境を確保する。結果から考察したことをノートにまとめさせる。				・鑑賞や音楽づくりでの発言の機会や振り返りの時間を充実させる。 ・自分の演奏をタブレット端末で録画し、振り返ったり、より良い演奏にするための手立てを考えたりする活動を取り入れる。		・造形的な視点をもって創造的に発想や構想ができるように、自他の作品や美術作品を対話しながら鑑賞する活動を効果的に取り入れる。 ・題材ごとに振り返りシートを用いて、自身の造形活動を記録し、次の表現へと繋げていく。		・実習を重視し、作業を繰り返すことで、技能を習得できるようにする。 ・学習した内容を実際の生活で試してみたいという意欲を喚起させるために、児童の興味を引くような教材を提示する。		・ICT機器を活用して、友達と伝え合いながら課題を把握したり振り返ったりする活動を多く取り入れる。				・目標表現を聞かせたり発話させたりする機会を増やし、目的意識をもった言語活動を充実させる。振り返りを4段階評価で視覚的に分かりやすくすると同時に、成果と課題を文章でも書かせて次時につなげる。		・多様な考え方をもちったり深く考えたりできるように発問を工夫する。	